

第2学年総合的な学習の時間学習指導案

日 時	令和7年1月28日(火) 第5校時 13:20~14:10
学校名	渋谷区立笹塚中学校
対 象	第2学年2組
会 場	4階2年2組教室
授業者	主幹教諭 石川 美穂

(1) **単元名** 災害時における避難所でできること (R6年度人権教育プログラム)

(2) 単元の目標

災害について考える活動を通して、命を守るための行動や災害発生時における避難所の役割とそこでの生活における様々な問題点などを理解し、地域の一員として、避難所でできることや果たすべき役割を考え、実践しようとする態度を身に付ける。

(3) 評価規準

ア 知 識 ・ 技 能	災害から自分の身を守るための知識や災害発生時における避難所の役割とそこでの生活における様々な問題点などを理解している。
イ 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	避難所生活においての様々な課題を見付け、課題解決に向けて多様な情報を収集・整理し、分かりやすくまとめ、表現している。
ウ 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	地域の一員として、避難所でできることや果たすべき役割を考え、自分たちにできることを見付けようとしている。

(4) 単元設定の理由

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、家屋の倒壊や津波などにより多くの被害が生じた。現在も、多くの人々が避難生活を余儀なくされている。

首都直下地震の発生確率は今後30年間で70%と高い状況であるとともに、災害は全国どこでも起こる可能性がある。そのため、災害発生時に自分の命を守るためにどのように行動すればよいのか、災害発生後、自分たちに何ができるのかなど、発達の段階に応じて正しく判断して行動できる生徒を育てていくことが大切である。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、東北地方を中心とした東日本に甚大な被害をもたらした。東日本大震災を通じて、避難所等では、プライバシーの確保のほか、女性や高齢者等への配慮が必要であることが改めて認識された。

そこで、災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解する学習を通して、人権課題「災害に伴う人権問題」に関わる正しい知識を身に付け、地域の一員として、避難所でできることや果たすべき役割を考え、実践しようとする態度を育むため、本単元を設定した。

(5) 生徒の実態

本学級は、行事や学級での生活を通して、お互いの個性を理解し、思いやりをもって行動することの大切さを知っており、仲間と協力し助け合おうとする生徒が多い。最近のニュースやメディアで取り上げられる災害に対して関心をもつ生徒も多く、特に自分たちの生活に関わる問題については関心が高い。しかし、多くの生徒は社会問題に興味をもっているが、具体的な事例に結び付けて考える機会は少ない。本学年の生徒は、中学1年時では、「能登半島地震に関わった職業」について一人1枚のレポートを書き、その職業を発表するとともに、自分の意見を伝えることができた。また、どの生徒も地域の防災訓練や学校での避難訓練を通じて、基本的な防災知識を習得している。今までに経験のないことが起きたときに偏見や差別をせず、どのように行動するかを自分ごととして考えさせていきたい。

(6) 人権教育の視点

災害発生時における避難所の役割やそこでの生活について考えることを通して、災害発生時における要配慮者への支援の重要性を理解させるとともに、正しい情報に基づき行動しようとする態度を育む。

(7) 単元の流れ (全6時間 本時は4時間目)

○学習活動 ・予想される生徒の反応	・人権教育に関わる留意点等
<p>【第1・2時】</p> <p>○ 「関東大震災復興100年教材 中学校・高等学校版」を活用し、関東大震災発生時の状況を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大正時代には、関東地震（関東大震災）が発生し、大きな被害があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能登半島地震等に関わり、被災経験のある親戚や知人がいる生徒が学級に在籍している場合を踏まえ、生徒の状況に十分に配慮する。 ・ 「自助」と「共助」について確認する。
<p>【第3・4時】</p> <p>○ 防災教室において災害時の避難につながる呼びかけをアナウンサーと共に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠い地震のこととかを身近に感じて、言葉の伝え方で、逃げるのが変わるのだなと感じた。 <p>○ 避難所で中学生としてどのようなことができるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の環境をよくするために、掃除などで貢献できるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に、どのようなことが想定されるのかを考え、自分のこととして捉えさせる。 ・ 大地震については、全国どこでも起こる可能性があることを確認する。 ・ 避難所の役割を確認し、共助の視点から、中学生として地域の避難生活にどのようなことで貢献できるかを考えさせる。
<p>【第5・6時】</p> <p>○ ポスターセッション形式でグループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊産婦、高齢者、外国人、障害者等への思いやりと支援が大切なことが分かった。 ・ 風評に惑わされないようにすることが大切だ。 <p>○ 学習を振り返り、地域の人とどのように連携できるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災訓練に参加し、地域の方々と顔見知りになることは、いざというときに助け合うきっかけになるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災担当の方等に参加を依頼し、災害発生時には、信頼できる情報を入手することや多様な人々への思いやりと支援が大切であることについて話していただけるよう、事前に打ち合わせを行う。 ・ 大きな災害が起こった時に備え、地域の人たちと何ができるかについて考えさせる。

(8) 本時の指導

	○学習活動 ・予想される生徒の反応	・人権教育に関わる留意点等 ◆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難所で中学生としてどのようなことができるか考える。 ・ 地域の中学生在が自分の学校が避難所になったときに、手伝っているのをニュースで見た。 ・ 中学生だからこそ、手伝えることがあるのではないか。 ・ 被災者と話をすることで、その方の心のケアができるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の役割を確認し、共助の視点から、中学生として地域での避難生活の際にどのようなことで貢献できるのかを考えさせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動画、「シェアしてみたらわかったこと」を視聴する。 ○ 地震発生時における、災害時の避難所での問題について、主人公を含むそれぞれの立場の人物視点から問題点を語り合う。 ・ 「違い」に対する偏見や差別で外国人はつらい思いをしている。 ・ LGBTについて正しい理解がされていない。 ・ 車いす用のトイレはどうしているのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所で中学生ができることを考える動画を用いて、自分たちの地区と比較しながら共助することを考えさせる。 ・ 災害時における、高齢者、外国人、未就学児、障害者などのおかれた状況を想起させる。 ◆ 地域の一員として、避難所でできることや役割を考え、自分たちにできることを見付けようとしている。【ウ主】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難している人たちは、どのようなことを必要としているかグループで話し合い、共通認識を行う。 ・ 障害のある方は、どんなことに困っているか伝えるにくいのではないか。 ・ 妊産婦の方や乳幼児を抱えた方は、衛生面でも不安を感じていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケースに分かれて発表を行う。 ◆ 避難所生活においての様々な課題を見付け、課題解決に向けて表現している。【イ思・判・表】

(9) 板書計画

<p>↓何を学ぶことに難を覚えるのか確認する。</p> <p>④ 障害者 配慮すること</p> <p>↓ 保護者と離れないよう、目をひからせぬ。</p> <p>③ 未就学児 配慮すること</p> <p>② 外国人 配慮すること ↓ 外国語を話せる空間をつくる。 (タブレットの使用など)</p> <p>① 高齢者 配慮すること ↓ 足元に気をつける。 寄り添い、話をよく聞く。</p> <p>避難所にはどのような人が避難をしていくか。</p> <p>・ けが人等の付き添い</p> <p>・ 炊き出しの手伝い</p> <p>・ トイレの設置</p> <p>・ テントや毛布の設置</p>	<p>例えば、震度5強の地震が起きたら…。</p>	<p>避難所で、中学生ができることを考えよう。</p> <p>中学生として、避難所を設備するとき、どのような役割があるか。</p>
---	---------------------------	---